

国語 第4学年 調べて確かめたことを話そう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、学級の生活で知りたいことを調べ、集めた事実を比べたり分けたりして、相手に知らせる中心を選ぶ。結果を全て読み上げず、中心が聞き取れるように強弱や間を工夫する。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 「調べて確かめたことを話そう」 教材名「生活調査隊」

2 単元の目標

話の中心を意識し、声の強弱や間の取り方に注意して話せる。調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①話の中心を意識し、声の強弱や間の取り方に注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫している。(A(1)ア・A(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

学級の生活で知りたいことを調べ、集めた事実を比べたり分けたりして、相手に知らせる中心を選ぶ。結果を全て読み上げず、中心が聞き取れるように強弱や間を工夫する。学習指導要領のA(1)ア・A(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

調べた相手・方法・問いを記録し、結果と感想を別の欄に書く。集計前に分類の基準をそろえる。私生活や家庭の経済状況など答えにくい調査は避け、回答しない選択を用意する。おおむね満足できる状況は、調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○生活で知りたいことを出し、相手と目的に合う調査の問いを決める。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○質問の意味がそろうように調査方法を考え、記録の仕方を確かめる。評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時：○調査し、回答を同じ基準で分類・集計する。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第4時：○結果を比べ、知らせたい中心と必要な資料を選ぶ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第5時（本時）：○中心と資料を対応させ、伝わる強弱や間を試しながら報告する。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第6時：○聞き手の質問で説明不足を確かめ、報告メモを直す。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第7時：○生活調査の結果を報告し合い、結果と感想を分けて聞く。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第8時：○中心を選んだ理由と、伝え方を工夫した効果を振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（5／8）

（1）本時の目標

調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫できる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べたどの結果を示すと、その中心が伝わりますか」

【めあて】学級の生活で知りたいことを調べ、集めた事実を比べたり分けたりして、相手に知らせる中心を選ぶ。

予想される児童の反応：・多い少ないを言う前に、何を調べたかが必要だ。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べたどの結果を示すと、その中心が伝わりますか」

調査結果を比較・分類し、知らせたい中心とその根拠になる結果を選ぶ。図やメモを使い、中心で声の強さや間を変えて発表を練習する。聞き手が中心を言い返し、意図した内容が伝わったか確かめて、示す結果や話し方を調整する。

予想される児童の反応：・多い少ないを言う前に、何を調べたかが必要だ。

・全部の結果より中心に関係する結果を選びたい。

・大事な結果の前で間を取ると聞き取りやすい。

指導上の留意点：調べた相手・方法・問いを記録し、結果と感想を別の欄に書く。集計前に分類の基準をそろえる。私生活や家庭の経済状況など答えにくい調査は避け、回答しない選択を用意する。

想定する難しさ：予想を調査結果として話す。学級での結果を全ての子どもの傾向と言う。数値の読み上げだけになる。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫している。（調査結果の分類メモ・発表練習の観察・話し方の修正）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・大事な結果の前で間を取ると聞き取りやすい。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べた

どの結果を示すと、その中心が伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

